

快晴の青空に、飛行機が、雁行するのは、近くに各務が原飛行場のあるが爲で近代的色彩がこの道の各所々に描き出されて居る。自動車の往來の多いのは、岐阜から名古屋へ、犬山の景觀を楽しみ遊樂をほしきまゝにする人の多いことを語つて居る。

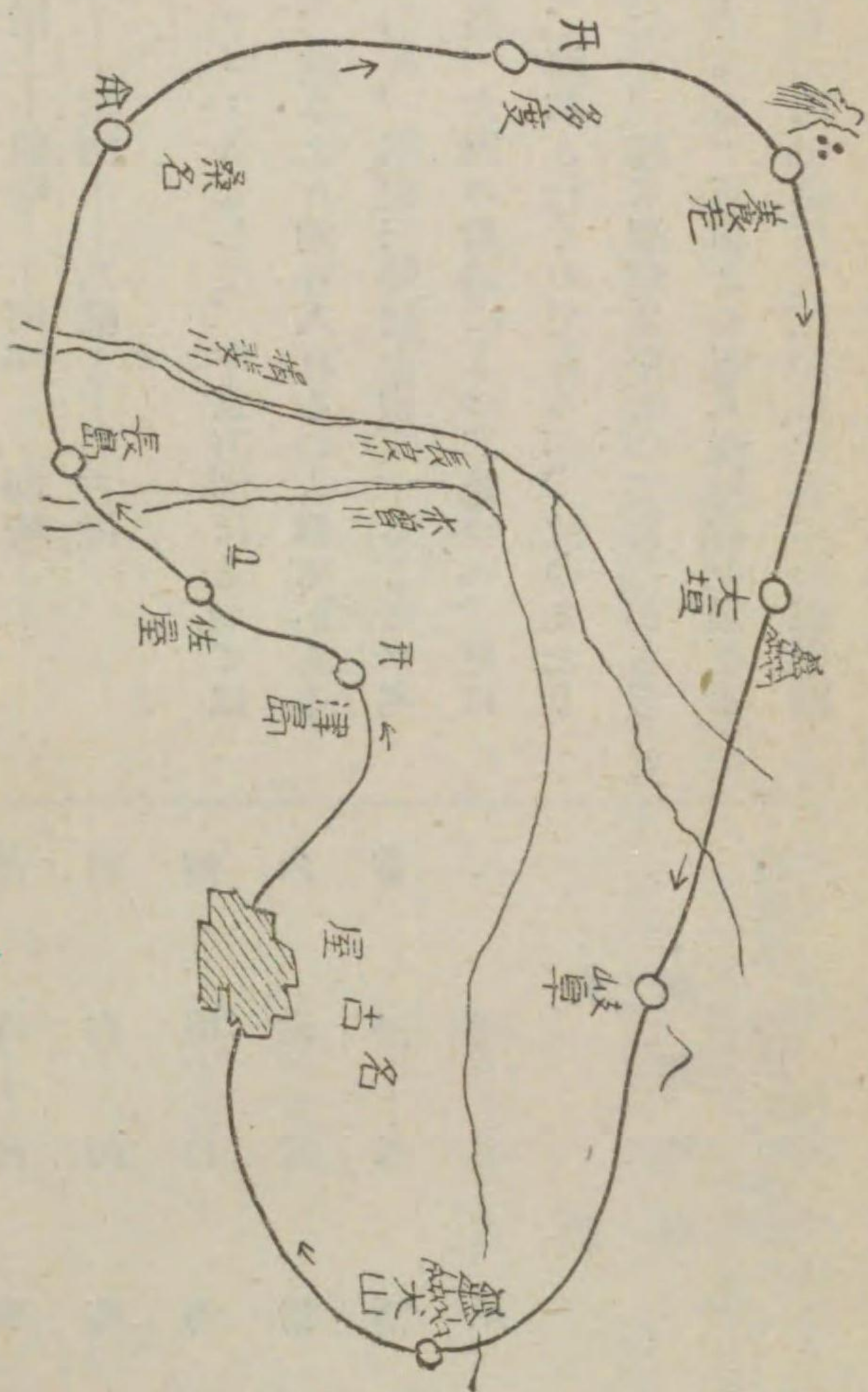
ところへ、走る車の中から散見する長良川の風光、犬山城は、間もなく前方に見えてくる。

鵜沼から、道を右手にとつて犬山橋を渡る。犬山ホテルのロビーには、名古屋人が大勢。日一ぱいの豫定に時のまだ充分残つて居るのを思つて、三十分の餘裕を得て、温かい紅茶をすゝつてから犬山城に登ることが出来た。天主閣よりの眺望は、今走つて来た一帯を自由に俯觀することが出来た。伊勢海は見えなかつたが、多度養老の山麓を走つて来たのかと思ふと、ドライブの爽快を思はずには居られなかつた。

ホテルに歸つてから、軽いランチに腹を満たし、名古屋への道を急ぐことにした。

も早や夕暮、四時に近く犬山をすてた車は、名岐鐵道犬山口の近くから、道を電車に離れて、小牛山の方に寄つて走る。

その間これぞと指呼すべき地點を知らず、唯だその速力を増すのみ、歸着したのは日の全く落ちきつてしまつた午後五時五十分であつた。



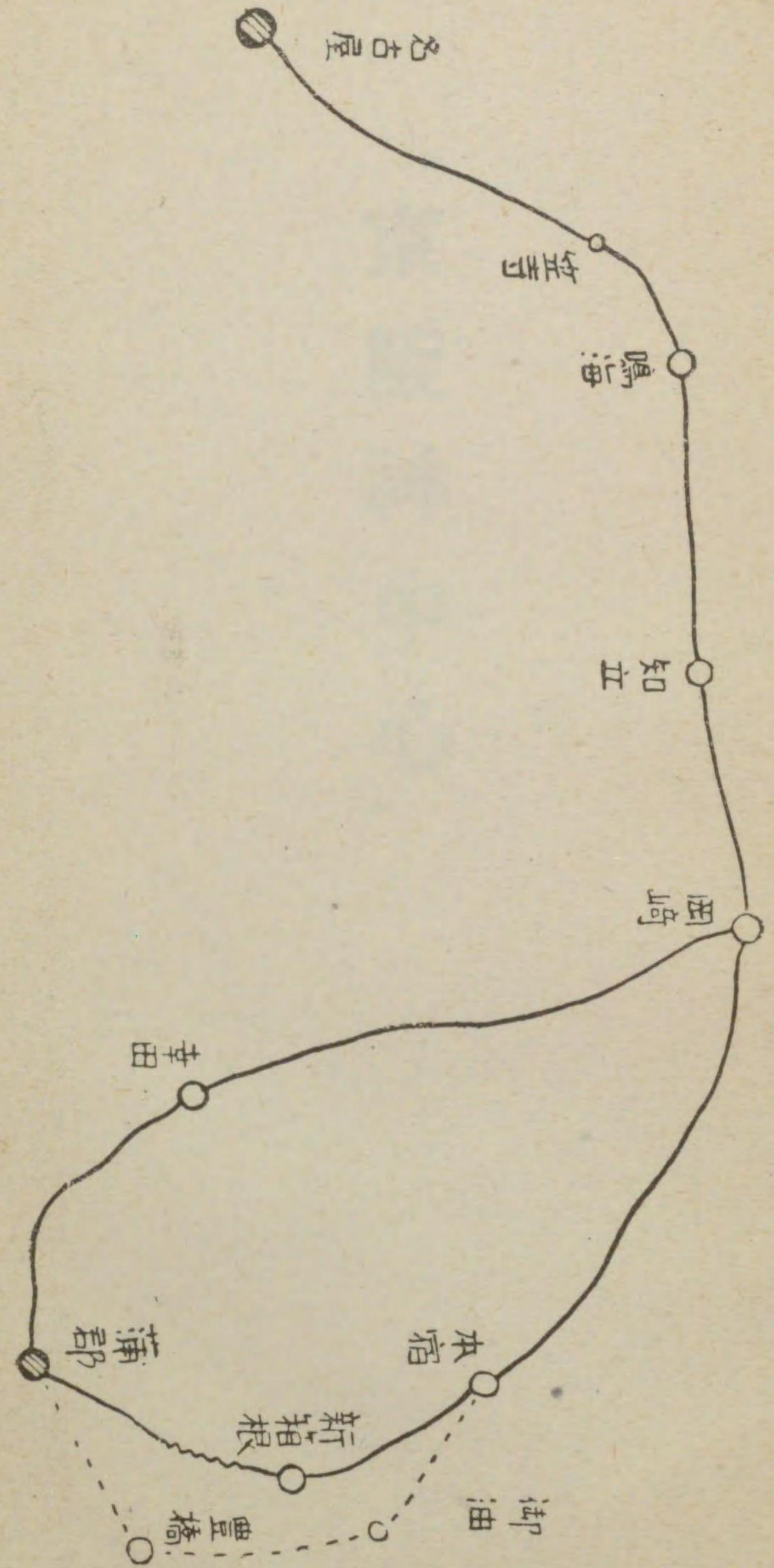
知多半島巡り

名古屋——龜崎——河和——師崎——
内海——常滑——八幡——名古屋

海岸線のドライブコースとして、中京方面にとつては唯一のもの、一宮、岐阜より乗り入れるのも興味がある(岐阜よりは約四〇K、往復三時間を豫定すること)名古屋より熱田、大高、大府の順路によつて龜崎へ、更に下つて半田、武豊、河和と行くのであるが、此のあたりは見るべきもの少なく、海も清浄さを失つてゐるからどん／＼飛ばすことである。河和より五K新屋敷を過ぎると奇勝賞するに足り、海田鼻の入江から片名への海岸線は殊によい。やがて突端師崎へ、名古屋を九時に出發す

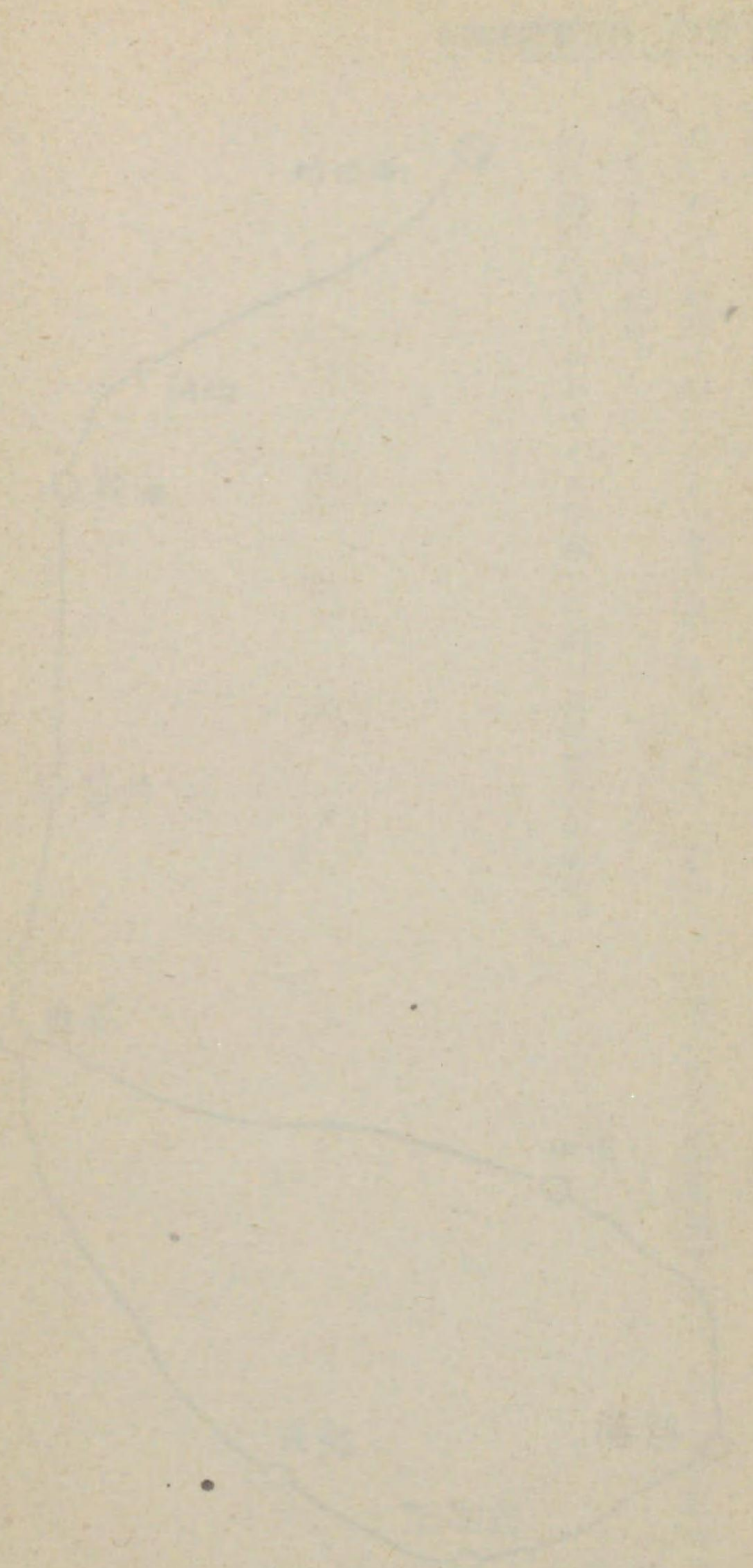
遊覽地(海岸線の景勝)	八幡	常滑	内海	師崎	河和	龜崎	名古屋
・合	八幡	常滑	内海	師崎	河和	龜崎	名古屋
・所要時間	一六	九	一五	八	一一	一三	二五K
	六時間	九七					

れば正午迄には必ず辿り着くことが出来る。日間賀島、木島、平島等を眺めながら晝食とする。次ぎは西海岸を豊濱へ、海老を好む方は此處を晝食とするもよく、海老の姿焼は名物である。北上して内海、海岸の奇勝は此のあたり迄、野間、常滑、大野附近は中京舞子、白砂青松は宛ら須磨か舞子に似た趣がある。此の區間で注意を要することは南端附近は道幅狭く大型の車は通行に困難を感じなくてはならぬ。



である。
 山を下つて蒲郡は観光ホテルを中食とするがよろしからう。九時に名古屋を出發すれば、正午前にはホテルに着くことが出来る。
 尚ほ蒲郡には、サーヴィス日本一の稱ある常盤館がある。

“京阪神中心”



くれつ

干網のつなのたるみや風薫る

唐崎堅田の勝地は、常に見なれて興湧かず、ただ道端の雑草いやが上に生ひ茂り、涼風渡る田圃、そこ此處に見ゆる菅の小笠の二つ三つ

若草や地藏小さくおわしけり

木戸村のあたり、街路狭く江若鐵道との交叉並行、わづらはしく、ドライヴの敵なれ。

踏切にいつまで貨車や日の永き

雄松崎に着く。近江舞子の名にそむかず、松青く砂白き濱邊、松籟長へに絶えざる所、眞帆片帆は宛然白鷗の如し。愛らしき少女の袂ひらくとそよ浦風にひるがへす

此の濱の松百態や風薫る

北小松より大溝までは長汀曲浦、路は湖に沿ひて繪巻物の如く、防波堤を築きたるあたり、千疊の男波女波は岩に激し、崖を噛み、萬顆の泡沫は清雪を飛ばす。飛沫のさても冷きことよ。

白鬚神社に詣づ。風涼しき老杉古松、社殿壯麗にして朱塗の鳥居厳しく、白砂清淨にして神々し。社務所は近時の建築にて、整美を以て聞ゆ。神域海に臨み、千古に變らぬ水の色、百里の湖一瞥の裡にあり、寄せては返す

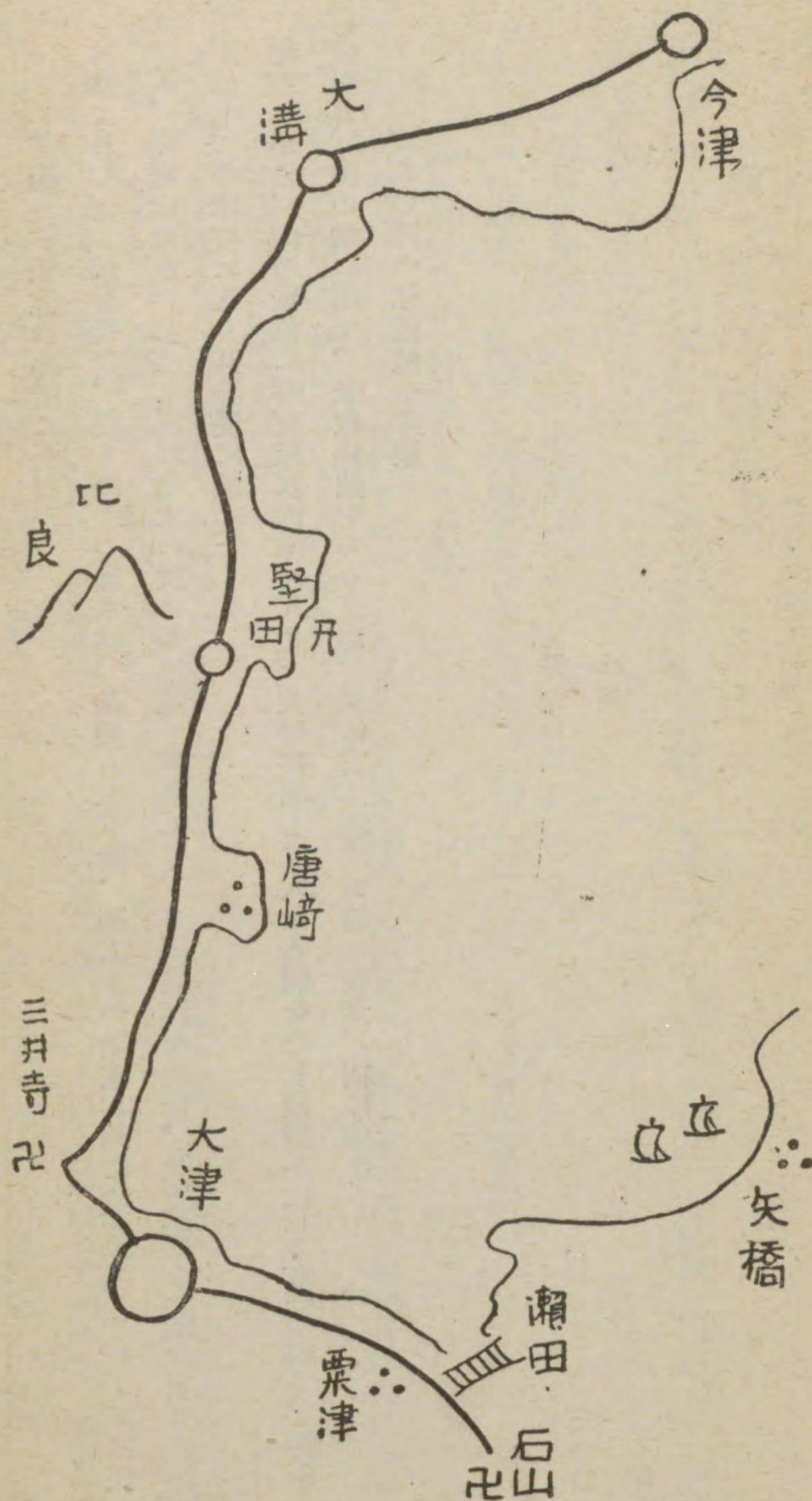
浪の音は宛ら神秘をさゝやくが如し。

夕陽さす朱塗の鳥居に松の花

大溝よりしばし湖を失ひ、松くぬぎの雑木林、緑滴る木下陰、蘂ぶきの田家其間に點在す。スビードは快よく五〇K、饗庭に至る。しばし忘れし水の眺め長汀遠く彎曲して、さゝ波汀を洗ひ、餘波砂上に匍ひ上りて布を晒すが如し、今津町に入り其發展に驚く。

湖のながめ、山の景色に時を忘れ海津に入る。大崎突出して大なる灣をなし波靜かにして鏡の如く、折から十六夜の月、山の端に出で、金波銀波をちりばめ、世に言ふ海津大崎の夜景、宿につき

次ぎの間の化粧鏡や青簾



京都より天橋廻り

京都—福知山—宮津—天橋—
引返し

京阪地方を基點とするドライブコースは、いくらでも
どんな種類のものでもお好み次第と言ひたい程澤山ある
が、絶好のドライブコースは『京都—天の橋立』とし
なくてはなるまい。

日本三景の一、天下の絶景に接し、一夕を宮津情緒に
浸る又……ならずやと言つた所でせう。この天の橋立コ
ースは、便宜上京都を起點とする。大阪からの場合京
都近くまで出て、途中北に道を探り、山陰街道に向へば
よい。日歸りでゆけぬ事もないが、なるべく土曜から日

遊覽地(觀音峠・由良川・宮津・天の橋立及附近)	合計	所要日數	復行	栗田	由良	福知山	檜山村	觀音峠	京都
	三〇〇	二日	一五〇	一七	八	三五	三二	一三	四五K

曜にかけての泊りがけがい。京都からなれば土曜日正午出發で結構。

京都から老の坂峠までは先づ悪道だが、老の坂を下れば龜岡町、屈曲甚しく、通りぬけには至極面白くない町と思ふ。しかし路面はこのあたりからうんとよくなつて来て、八木町、園部町、似た様な町だ。車の調子さへ出れば今のうちに走つて置くこと。園部町から三Kで觀音峠の頂上に、近頃老の坂峠と共に面目一新して、トツプギヤで樂々上り切れる。頂上トンネルを通りぬけた所で第一回の休憩、水もあればベンチもある。京都から四五K。

觀音峠を下り切つた所が須知町、高原の町と言つた感じのする所。觀音峠から一三Kで檜山村、やがて菟原村あたりから溪流に見るべきものあり。觀音峠から四五Kで福知山に着く。

『七分を以て半とすべし』と言ふ旅行者鐵則があるなら、天の橋立までの丁度七分通り走つたことになるから一休みしてもいい。

福知山よりは只北へ北へ、由良川の流に沿うて北上すればよい。道巾も相當あり、路面もさ程悪くはなく、由良川はさまで大川ではないが水量豊満、清澄、所々水邊の景色に見るべきものがあり、頻りにドライバの目を誘惑する。河守町を過ぎると、道は愈々平坦となり、低くなり、見渡す限りの桑畑、竹藪の蔭、櫻のトンネル、勢ひにまかせて走る。福知山から三五K餘り、はるか右前方に長い鐵橋が見えるのは由良川の河口、正面の村が

由良である。由良の小公園は休息によい。

由良から次の村栗田まで八K、この間が又トテモいい。松並木の間、數十丈の絶壁の上を六十幾曲り、ハンドルとる手もどうかするとお留守になり勝ちだ。老松の並木は更に長く續いてゐる。カメラ心が湧いて来るが、要塞地帯のため許可なしに撮影は出来ない。

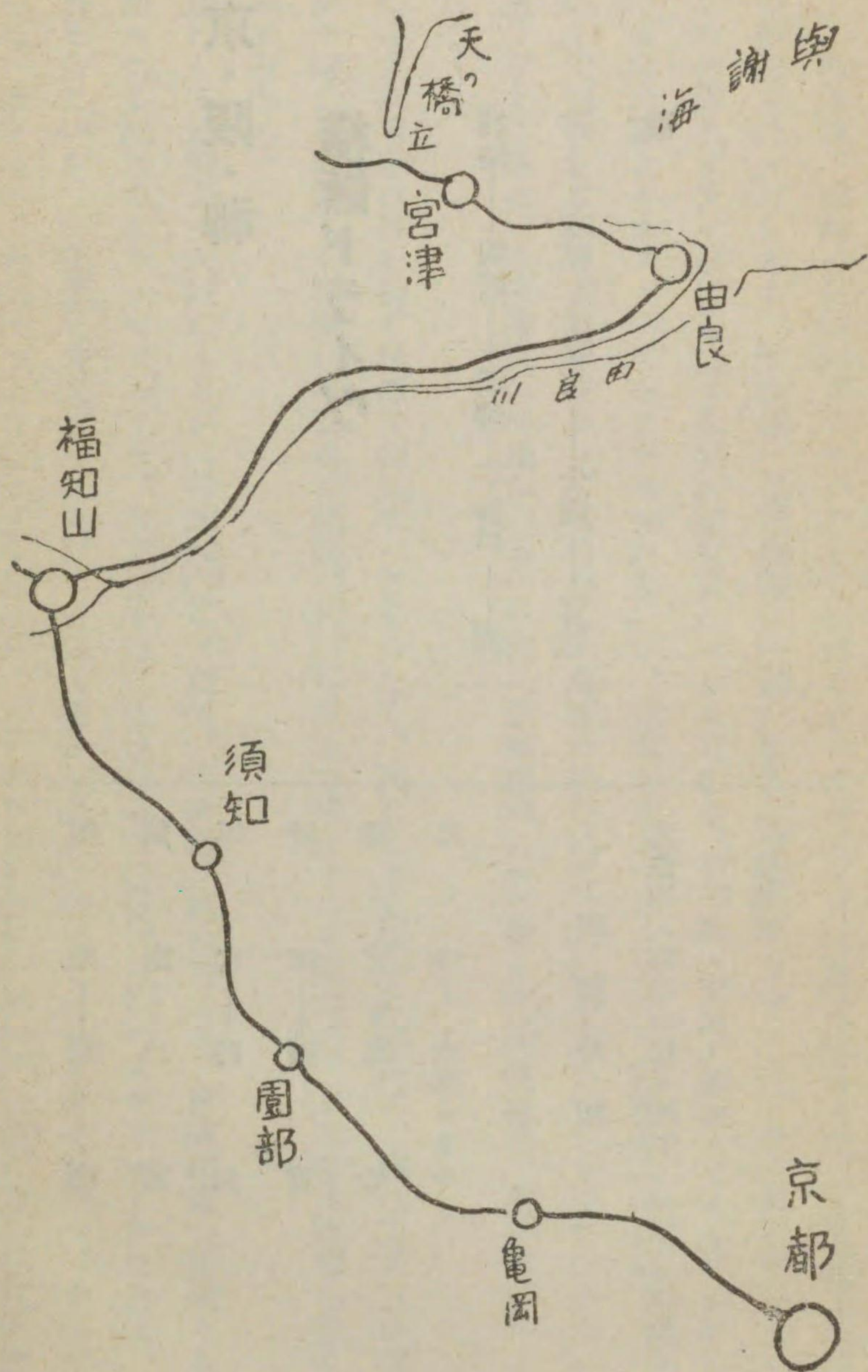
栗田村を過ぎ、小さい峠を一つ、トンネル一つぬけるとはや宮津、峠の下り坂で、目的の宮津を見下すことが出来る。静かな静かな宮津灣、まるで湖にも似た静けさの奥に、いやにおちついた宮津、右前方には早くも天の橋立が浮いた様に見える。

京都から一五〇K正午京都を出發したとしても暮れるにはまだ早い。一気に文珠まで行つてもよろしいが、一先づ旅館に着いた方が萬事好都合、しかし車庫の事は第一に交渉すること。

第二日午前中は、天の橋立遊覽に費すが、天の橋立を遊覽するには、愛車を捨て、普通の遊覽機關に依る方が味がある。

先づ宮津を立つて、自動車又はモーターボートで文珠に行き、門前で智恵の餅を買ふ。

次に開閉橋(小天橋)を渡り、大天橋を過ぎ、名勝天の橋立の先端から散策の第一歩と初める。松の緑の三十丁、朝風に吹かれ乍ら歩を進める。長い様でも決して飽かぬのが、むしろ不思議な位、天の橋立遊覽中、この散



策は最も味はふべきところである。更に大沙州を終つて、府中からケーブルカーで傘橋に登り、時間があれば更にこの奥十町餘り、名刹成松寺に參詣するもいゝ。(傘松から成松寺までは乗合自動車の便があるが府中から傘松までのドライブは出来ない。目下専用道路計畫中とある)

三時間位)

宮津の宿で晝食、ゆつくり休んで、型の通り車體點檢の上、車上の人となる。

京・阪・神

横断ドライブ

姫路—明石—須磨—神戸—西
 宮—大阪—京都—大津—琵琶湖

姫路—須磨	一三K
須磨—三宮	三六
三宮—野田	四〇
野田—櫻宮	五
櫻宮—東寺	四〇
東寺—大津ホテル	一八
合計	一五二
所要時間	八時間

遊覽地(高砂の松・明石・舞子・須磨・一の谷・甲子園・寶塚・東寺・インクライン・三井寺・琵琶湖)

大津—姫路間、關西の長距離ドライブとしては最もコンディションに恵まれたもの、琵琶湖、嵐山をとり入れた夏の納涼ドライブとして、又寶塚、琵琶湖畔に一泊の氣永な家族向ドライブに、更に腕に覚えのオーナーは三〇〇Kの日歸りドライブにも適する我が國有數のコースである。

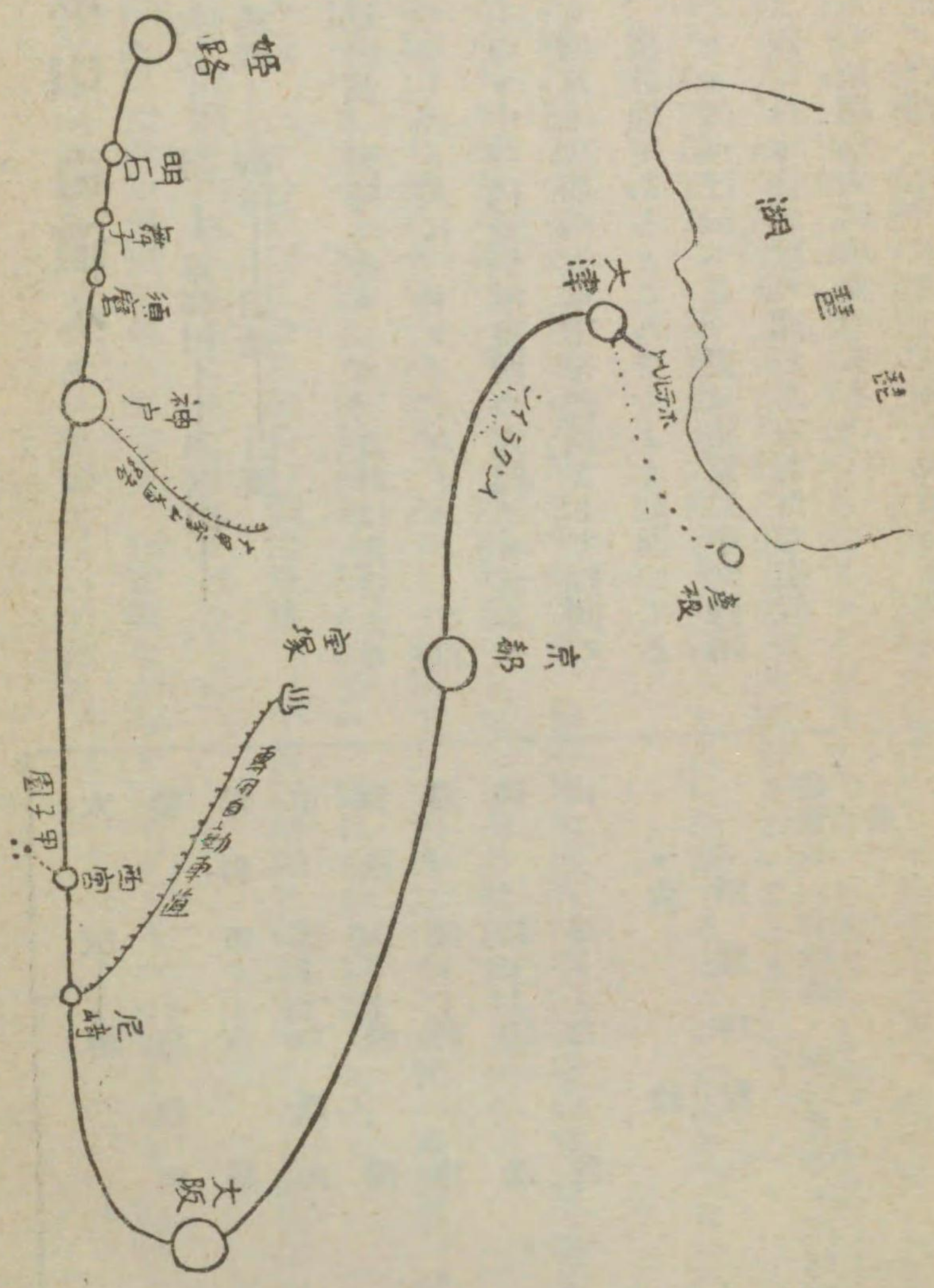
本来なれば大阪よりスタートすべきかも知れないが、遊覽を主とするため西の端姫路より出發する。

播州巡りで知られている廣野のゴルフ、石の寶殿、高砂の松を過ぎ、明石公園には一寸車を止めたいところ、舞子須磨は車上に眺め、神姫國道(時速五〇K)を後に阪神國道(神戸市内時速四〇K、再び五〇Kとなる)へ乗り入れる。

西宮迄は北に六甲の峯を仰ぐ程度で特筆すべきものなく、西宮より武庫川に添ふて、南へ二K行けば甲子園がある。尼ヶ崎より分岐した寶塚行尼寶専用道路、六〇K以上で飛ばすのも面白く、十五分で寶塚へ着くから是非寄り道して行かふ。

再び逆行して野田より大阪に入るが(時速四〇K)梅田、天神橋、櫻の宮より、京阪國道へ素通りして、二〇m幅の坦々たる堤上のドライブウェイを、京都東寺迄三五分乃至四〇分。一泊のスケジュールなれば、途中宇治に立ち寄るもよいが、大急ぎで走破するために、三條大橋から疎水に沿ふてインクライン横へ、やがて「蟬丸」の歌で名高い逢阪山へ、此處はかなり急な坂もあるが、トップで突き切り大津へ、三條大橋から三十分もあれば

タップリである。嵐山へは、京都西院から立派な舗装道路が出来てゐるので、時間を見計らつて往きか歸りの何れかを選んで立ち寄りたものである。



和歌山・白濱へ

大阪——堺——岸和田——和歌山——
湯淺——御坊——田邊——白濱

大阪より南紀白濱、湯崎へのコース、これは東京より箱根、熱海へのコースと共に、ドライブコースとしては常識化されたものゝ中の代表的兩東西の大關とも云ふべきである。而も何れも東西兩大都市を起點として暖國の温泉地に向ひ、別莊地であるところまでよく似通つてゐるのも奇しきことゝ云へば云へる。更に東京に中途湘南がある如く、大阪には中途和歌の浦があるあたり迄似てゐれば、コースの距離迄大同小異である。

たゞ異なるのは、白濱には、ドライブから見ると新興的

大	阪	堺	岸	和田	市	湯	和	歌	山	湯	御	田	邊	白	濱	湯	崎
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一四	一六	一九	一八	二九	一九	二六	一六	一五	一七	一八	二六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
K																	
遊覽地(和歌浦・紀三井寺・南部梅林・白濱・湯崎) ・合 計 一五七 ・所要時間 八時間																	

な味はひがあり、箱根、熱海の道路に比し、白濱、湯崎の道はやゝ不完全であり、従つてこれを日歸りとするには闇を衝いて走るか、又はよほど腕に自信のあるドライバーでないといふ無理である。尤も箱根、熱海廻りも、日歸りとしてはギリギリの時間を要するから此の點も多少共通性が無いこともない。

ともかくかやうな次第だから、關東勢が大阪——白濱コースに垂涎すること一通りでないのも無理からぬところと云へやう。

大阪を午前八時出發とすると、堺通過八時三十分過ぎ、岸和田通過九時半、和歌山着は十時半とならう。

和歌山からは六Kを和歌の浦へ、早いやうだが此處でしばし遊歩の後晝食としやう。

引き返して和歌山より紀三井寺へは三K、本コースを南下して湯淺に出ると午後一時過ぎ、御坊へは四十分、安珍清姫の道成寺へもよし、其處より海岸線を一氣に田邊へ、道はかなり屈曲してゐる。

田邊で小憩の後、三十分の後には目的の白濱温泉場へ、午後四時迄には到着することが出来やう。梅時分には田邊の手前南部に有名な梅林があることを忘れてはならぬ。

白濱、湯崎附近は文化の別天地化してゆく。短距離ながらドライブ・ウェイもあるし、海岸の景色もよく、山腹には別荘と文化住宅が適度のダンダラ模様を描いてゐる。

伊勢參宮

名古屋より—桑名—四日市—津—山田

大津より—水口—關—津—山田

京都より—伏見—木津—上野—津—山田

大阪より—奈良—木津—上野—津—山田

名古屋—四日市	三六五
四日市—津	三二二
大津—山田	三五三
大津—草津	一〇五
草津—水口	二四〇
水口—關	二七二
關—津	一二二
津—山田	三五三
京都—木津	三二二
木津—上野	二四二
上野—津	三三二
津—山田	三五三
大津—阪	五〇五
阪—奈良	二四五
奈良—木津	二四二
木津—上野	三三二
上野—津	三五三
津—山田	三五三
山田—見	八
名古屋より	五時間
大津より	六時間
京都より	七時間
大阪より	七時間

伊勢詣でドライブ、これは神詣でドライブとして、關東、關西を問はず、一度は把手を進めなくてはならぬ。従つて參詣コースも各地に放射線状を描いてゐるので、此處に一括することにした。

名古屋より

これは關東はもとより中京方面よりの唯一つのコース、但し岐阜方面よりは、養老コースにより桑名に出た方がよい。

名古屋から伊勢へは、宛ら伊勢參宮ドライブの表道の如く、道も橋も殆んど改良し盡されてゐるから一氣に飛ばしてよく、早朝出發して伊勢大廟に詣で、二見ヶ浦に遊んで其の日に歸ることが出来る。日歸りの出来るのは大津、京都、大阪何れよりも同じことであるが、然し折角來た以上二見ヶ浦に一泊して翌日附近を遊び、ゆつくり歸るのが常則の如くなつてゐる。従つて此のコースも一泊のコースとしたわけである。

大津より

大津からは、伊勢詣でのドライブに使用するものは少ないかも知れぬが、これは十年以前のコースとして有名なものであつたゞけに収録することにした。然し十年以前は、多くは鈴鹿越えを避けるため、草津より三雲に、それより柘植に出てゐたが、これは急坂が無いと云ふだけで、伊賀越えの山道も樂なものではなかつた。尤も大津附近からは是非共本コースによらなくてはならず、又此の頃湖畔巡りが盛んとなつてゐるので、これと伊勢參

宮と結びつけるためには、此のコースに依らなくては損である。

道は廣いと云ふのではないが、さりとして悪くもなく、靜かに氣持ちよくドライブすることが出来る。

京都より

京都からは、大阪に出て、大津よりのコースを行くものと、伏見——木津——伊賀上野——津——山田のコースと二つある。一般的には木津に出て行くことがよいであらう。

然し、人によつては大津よりのコースをとつて、歸りに木津へのコースをとることを好むであらう。鈴鹿峠も昔日の如くではなく、第一木津線よりも交通量が少ないので非常に氣樂であるから、往行にこれを取り、歸路に木津から奈良へ、奈良見物をして歸るといふのが一番理想的ではあるまいか。

大阪より

大阪よりは最も不利であるが、然し奈良への道路が非常によくつたゞめ此の點樂である。大阪からは往行に本コースをとり、歸路は紀州路へは入り、南紀をひと廻りする手もあるが、これは一般にはすゞめられない探勝コースである。

所要時間を見ると、

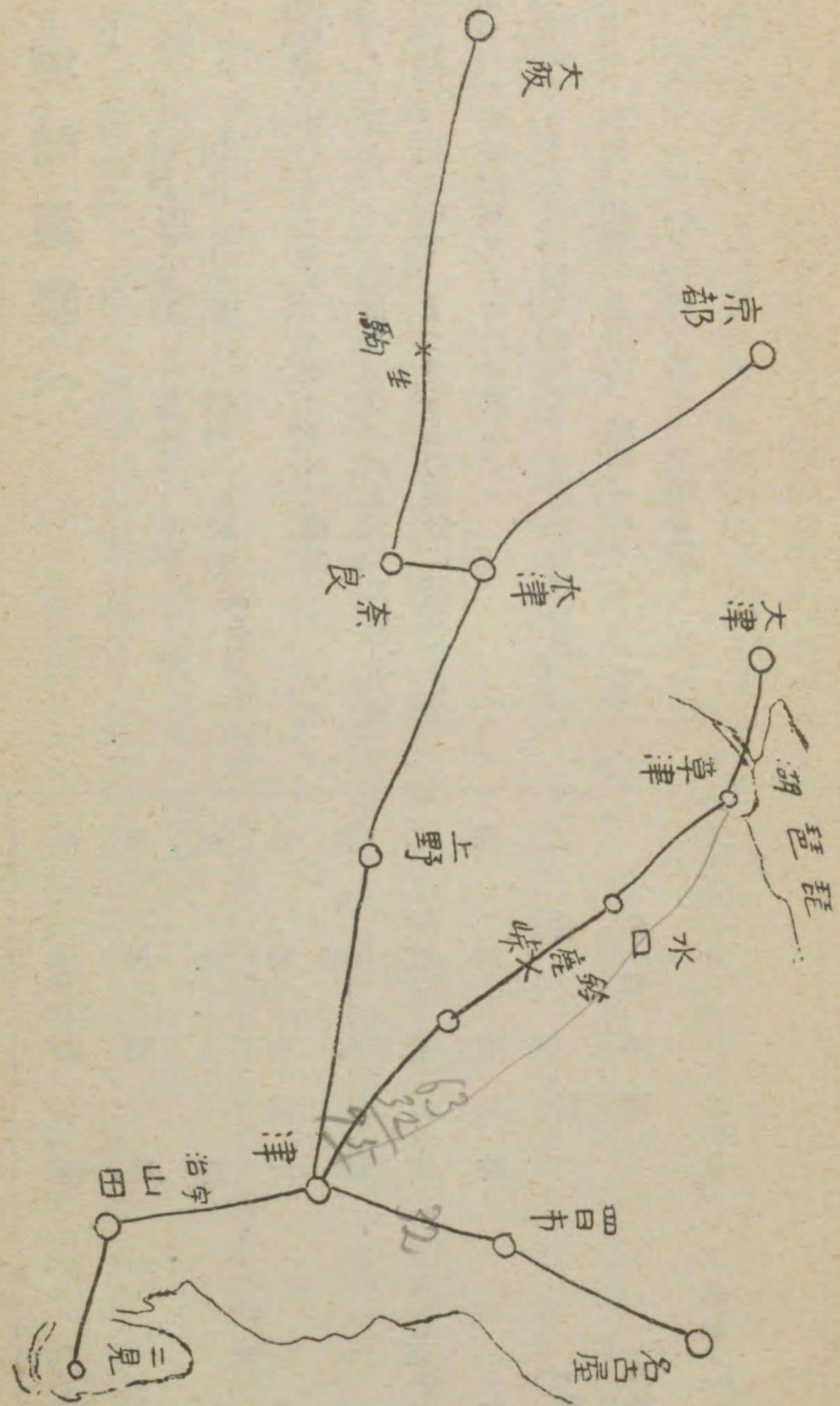
名古屋より五時間

大津より六時間
京都より七時間
大阪より七時間

(各沿道遊覽時間を含む)

と見ればよし、一泊の目的なれば、多少時間を費しても平氣であり、大津よりのコースを除けば如何なる素人でも樂にドライブが出来る。

伊勢詣での途次、是非共二見ヶ浦へは立ち寄りなくてはならぬ。山田から十數分で達することが出来る。近時ドライブアが増加したため、旅館にも自動車の扱ひに馴れたものが多くなり、此の點オーナーはどれ位安心するか解らない。



城崎温泉へ

神戸——姫路——福崎——生野——和
 田山——八鹿——豊岡——城崎

京阪神を中心とするドライブコースは概ねビクニックコースとも云ふべく、豪壯なドライブと云つた感じのものが少ない。此の中で、まづさうした氣分に浸ることが出来るのが城崎温泉コースだと思ふ。

無論此のコースは一泊であつて、大阪からは伊丹、三田、古市、和田、佐治、和田山、城崎と行くコースもあるが、此のコースは道に迷ひ易く、道幅も狭く、且つ距離も姫路廻りと異らぬため、ドライブによる時は本コースによつた方がよい。京都からは山陰線に沿ふて行かなく

神	姫	福	生	和	八	豊		
戸	路	崎	野	田	鹿	岡		
—	—	—	—	—	—	—		
姫	福	生	和	八	豊	城		
路	崎	野	田	鹿	岡	崎		
計								
一五七								
八時間								
遊覽地								
(市川溪流・生野銀山・玄武洞・城崎温泉)								

くはならぬ。

起點は神戸三宮とする。坦々たる京姫ドライブ・ウェイを一氣に姫路迄、途中明石の西土合より右に北條へ出てもよいが、此の道はあまりすゝめられない。

姫路より一六Kで福崎へ、市川の溪流に沿ふて北上すれば、三〇Kで銀都生野に着く。此の間市川の溪流は夏なれば河鹿の聲を聞き、清冽な谷川と云つた感じの流れは、雄大さはないが、落ち着きのある山水畫を見るやうである。

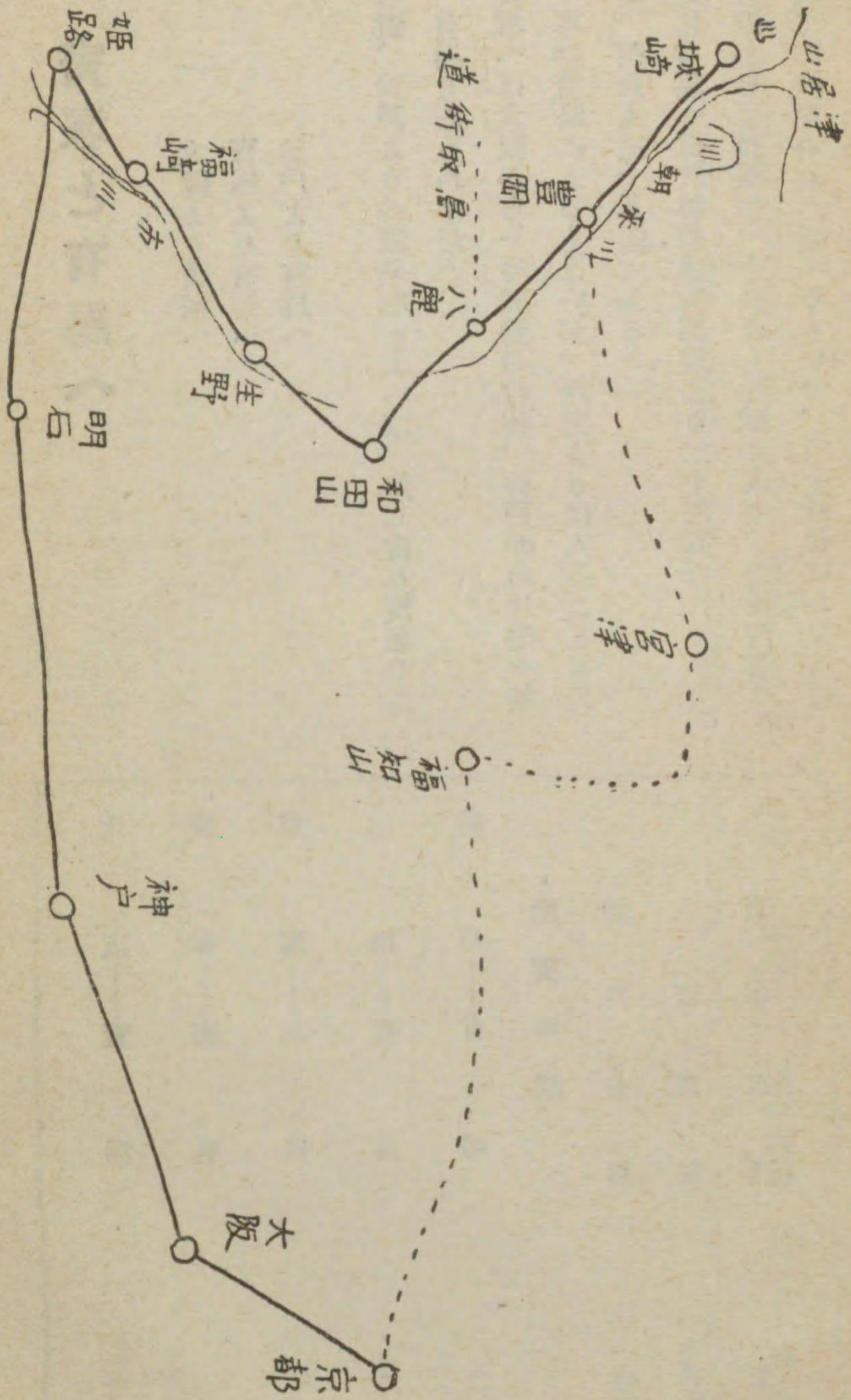
少し遅くはなるが生野で晝食をとり、車を停めて一時間を銀山の見物に過すのもよからう。生野附近國越えの峠が横たわつてゐるが、道路は改修されてゐるから何等の懸念もなく、夏の山峽の蟬の夕立、秋、道にこぼれる栗を拾ひながらのドライブは此のあたり特有のものである。

生野から和田山へは三十分の行程、和田山からは宮津街道に迷はずに八鹿へ向はなくてはならぬ。蠶郷だけあつて見渡す限りの桑園を過ぎると朝來川へ、やがて八鹿町へ達する。

此處より鳥取街道を左に見て豊岡へ、信濃の流れにも似た朝來川に沿ふて下ると、間もなく右方對岸に洞門が見える。これが名高い玄武洞である。城崎へは後數分であるから、渡船を利用して玄武洞を見物し、引き返して城崎温泉へ着けば漸く太陽の影を没する頃とならう。

翌朝城崎附近津居山の港に遊び引き返すもよいが、二三日の餘裕があれば、八鹿に引き返して鳥取に出で、津山—姫路と廻るもよく鳥取(一泊)更に豊岡より出石—弓中を通過して宮津へ出で、京阪より天橋廻りコースと連絡すれば理想的である。豊岡—宮津間は七三区、約三時間である。

Handwritten signature or note in cursive script.



寶塚と有馬へ

大阪より寶塚へ
寶塚より有馬へ
神戸より有馬へ

大阪、神戸よりの温泉地と云へば、差し當り寶塚であり、有馬であるわけだ。

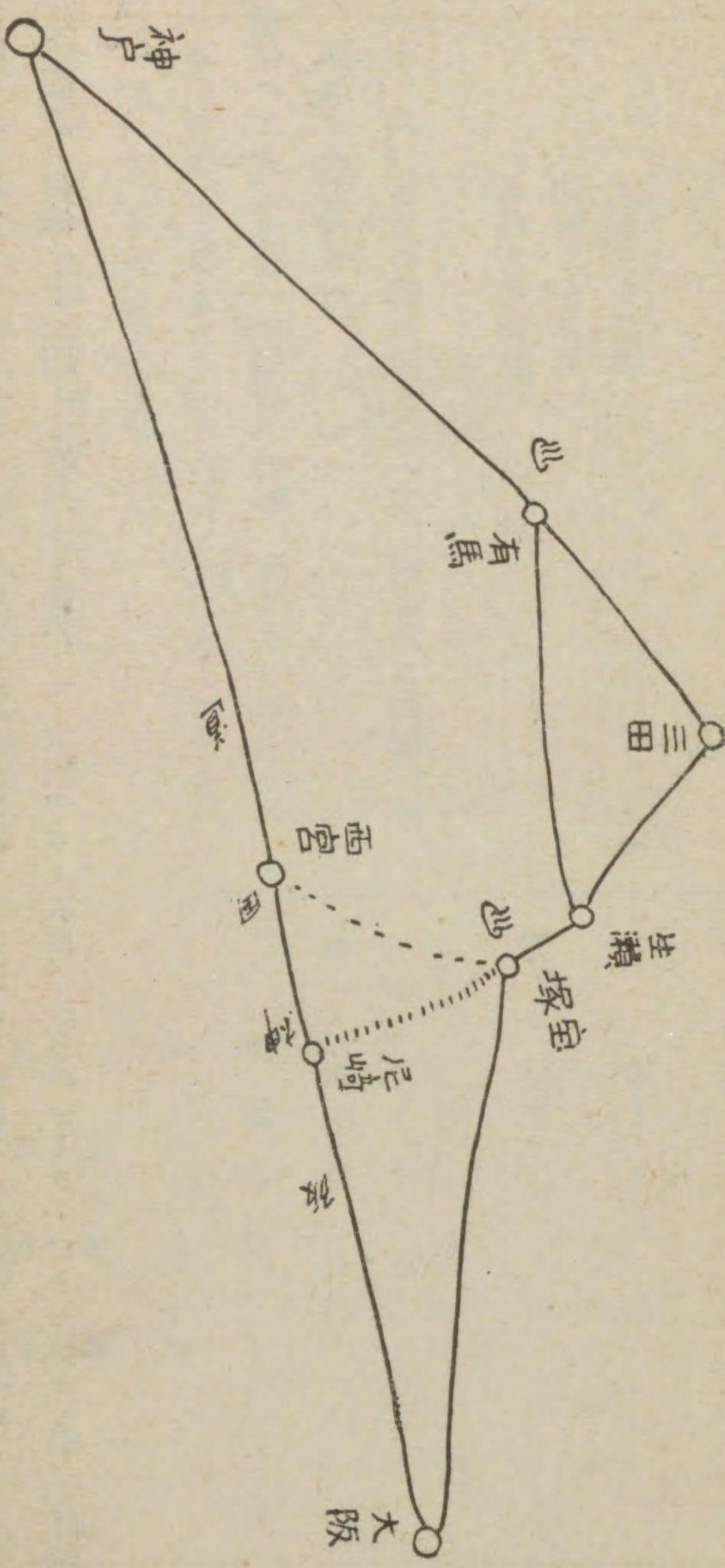
寶塚へは大阪から一時間餘の行程、神戸からは尼ヶ崎より専用道路によるもよいが、西宮よりは入ることも出来る。何れも三十K餘である。

更に有馬へは、神戸は有馬道より二十三K。

大阪からは寶塚へ、それより生瀬に入り、三田街道に分れて山峽を有馬へ通ずるもので、三十分位はかゝるだらう。

山峽の風光を賞しながらのドライブには、生瀬より三田へ、三田より改良された道を有馬へ行くと一番よい。殊に大阪より寶塚——三田——有馬——神戸——大阪のコースは、一日のオート・ピクニックとして好適と云へやう。

大	寶	寶	三	神	・所要時間		神	大	寶
阪	塚	塚	田	戸	神	大	戸	阪	塚
—	—	—	—	—	戸	阪	—	—	—
寶	有	有	有	有	—	—	有	有	有
塚	馬	馬	馬	馬	—	—	馬	馬	馬
三〇K	七	二七	二三	一時間	一時間餘	三十分			



昭和十一年三月二十日印刷納本
昭和十一年三月二十五日發行

版權所有

發行所

東京市京橋區京橋一ノ二
千代田證券ビル三三五號

オートモビル社

電話京橋五五一四番
振替東京四七三五四番

編輯兼發行人

尾崎正久

印刷人

東京市神田區錦町二ノ五
田中重人

印刷所

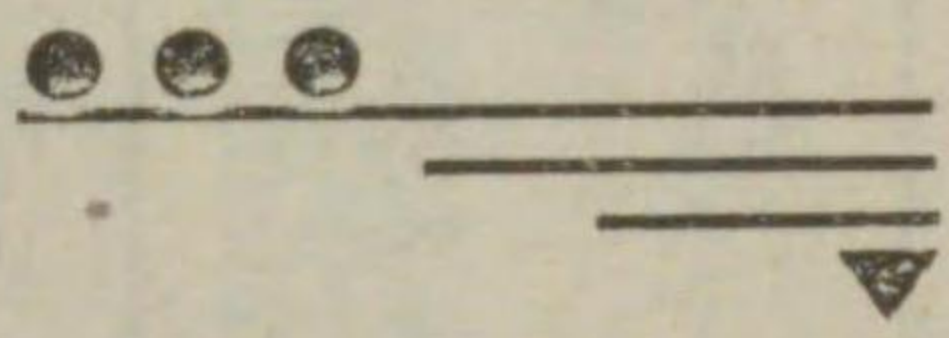
東京市神田區錦町二ノ五
株式會社 文成社

ドライブコース案内

【定價金壹圓五拾錢】

神奈川縣鎌倉町材木座七一四

代表的ドライヴ用品案内



オーナー必携
スポーツにも
ビクニツクにも

マリ急救箱

ガーゼ・繃帯・衛生綿・絆創膏・ハサミ・
ピンセット・外傷薬・刺蝮劑・船量劑・其
の他應急薬入、五寸に四寸の美麗箱入而も
防水手携ケース附にて便利重寶
定價二圓十錢・送料十五錢・外地四十二錢

ミラークロック

(時計入バツクミラー)

バツクミラーが必要なことは今更云ふ迄もないことです。
本品は美麗なバツクミラーの中に時計を嵌めた文化的逸品。
而も時計は絶対保證のセイコーの専用時計。

(定價十四圓・送料荷造共二十錢外地五十錢)

ダツトサン 部分品

ダツトサンの全部分品、附屬品を最も速かに届け、而も廉價に供給
すると云ふので大評判、注文書到着即日發送。
此の外一般部分品も迅速丁寧に御用命に應じます。又市内の用品御
購入に對するあらゆる相談相手ともなりますから、御遠慮なく御一
報下さい。

シガーライター

風が吹いても消える心配なく、衣物を焼く憂ひもなく、カバーを
とれば直ちに火がつく、アメリカで目下大流行の品。

(九圓・送料二十錢・マホガニー灰皿四圓・送料二十錢)

タイヤーゲーチ

タイヤとエンヂンの保護に是非一個、ちよつと當てると直ちにプ
レツシャヤーが解る、懐中時計型USの特製品です。

(四圓五十錢・送料二十錢・外地五十錢)

ドライヴ用手袋

本社特製、指の關節が自由な極軟皮、汚れ、ば洗濯のきく、而も
五ヶ年は絶対保證の逸品、指の型をお送り下さい。

(冬季用男女共二圓五十錢・夏季用五十錢増・送料十二錢)

ドライヴ之友型 クツシヨ

ドライヴして何故疲れるか、それは身體を不自然な状態に置くからで
殊に固いシートに二時間も乗つてゐると、その苦しさは骨身にこたへる
ものがあつたでしょう。かうした悩みを解決するために、ドライヴ之友編
輯部で考案した理想的なクツシヨです。而も普通のクツシヨと異リ
一枚折りになつてゐて、一方は背に、一方は下部に敷くため身體の
デイシヨンは頗るよく、一枚に折れば座布圍ともなり、其の上内部は洩
毛防止装置附全羽根布圍のため心地は満點です。

(定價四圓五十錢・送料四十錢・外地一圓)

部理代社ルビモト一オ

ルビ券證田代千・二ノ一橋京京東

部理代社ルビモト一オ

番四五三七四京東替振・四一五五橋京話電

ドライブの手引

初歩のドライブ讀本・ドライブの手ほどきとして頗る好評、既に六千部賣切れの大盛況。我が國のドライブの手ほどき書としては唯一つのもの、而も説くところ、イロハから入門する極く平易なもので、婦人や子供でも樂に修得することが出来、尙ほ一々便利な圖解入、これを讀めば三時間餘りの練習でドライブ出来ると云ふ、ドライブ讀本の唯一つ普及版である。

定價三十錢・送料二錢・切手の場合は一割増、代引謝絶

ガソリン節約法

ガソリンの市價がだん／＼高くなる。如何にすればこれを節約出来るかを説いたもの、我が國の全自動車使用者がこれを讀めば、國家經濟の見地から見ても益するところは數百萬圓に上るであらう。而もガソリンを節約することは、自動車を上手に運轉することになるから同時に自動車の操縦も上達する結果となる好著。

定價二十錢・送料二錢・切手の場合は一割増、代引謝絶

版出社ルビモトオ

番四五三七四京東替振・四一五五橋京話電

オトモビル

●自動車の理論・技術・經濟・統計・資料を盛る本邦で最も權威ある月刊雜誌
●自動車関係者はもとより、各方面に確實な讀者を有し、尙ほ本誌は自動車技術協會指定誌としての堅實さをもつてゐる。

毎月一回一日發行
定價 一部 五十錢
(送料 二錢)
半年 三圓
(送料 共)

ドライヴの友

●最も新らしい生活を盛る雜誌
●最も新らしい内容を盛る雜誌
●日本で唯一つのドライブと觀光を主とした雜誌
●近時非常な賣れ行き、而も四六倍版一〇〇頁二十錢と云ふ廉價、内容は麗筆で埋め、アート・グラビアを挿入した美しくしき雜誌
●近代人の求めてゐる雜誌である。

毎月一回一日發行
定價 二十錢(送 一・五錢)
一年 二圓四十錢(税共)

書店で發賣

發行所

東京橋千代田證券ビル
振替東京四七三五四番

オートモビル社

自動車工學

綜合自動車講座
第一卷

執筆者
工學士 門馬 孝吉
早大 山 口 達
工學士

オートモビル社が創業以來努力を傾けて編纂しつゝあたつ綜合自動車講座第一卷自動車工學は愈よ發刊された、研究室の困苦しさに非ず、一般解説書の如き駄文に非ず、自動車構造學をガソリン、デイズル、木炭の各エンジン別に普及的文字にて表はした我が國唯一つの好著。

技術者、學生、自動車技師志望者

への好参考書。是非一讀をすゝむ。

第二卷以下連續刊行、全自動車界の各般事項を各種別に六部刊行

定價各册二圓

送料十錢
全國書店にあり

發行所

東京橋千代田證券ビル
振替東京四七三五四番

オートモビル社

703
12

